

山行報告書

作成:2006年7月7日

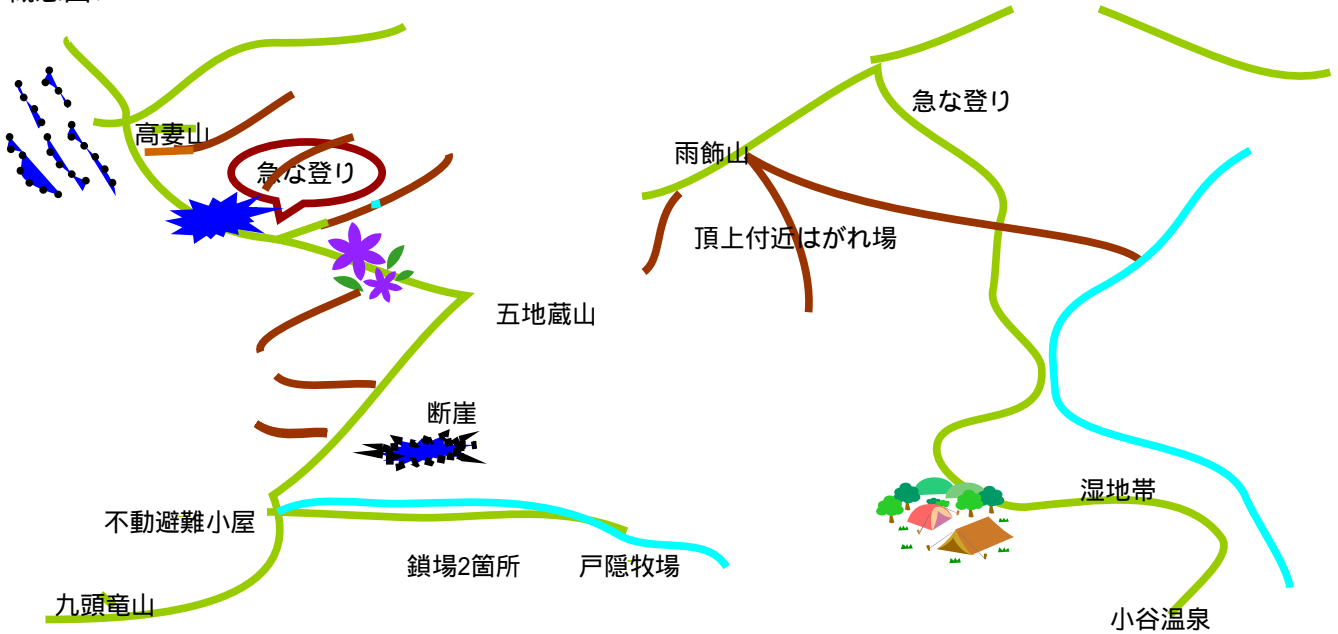
愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	雨飾山・高妻山	目的[方法]	百名山登頂と自然観察
期間	2006年6月24・25日	形態	1泊2日
参加人数	5人		

行動記録:

6/24(土) 岩津市民センター-PKG(500) ==豊田東 IC== 東海環状道 ==中央道== 長野道更埴 IC(815) - 戸隠牧場(915) - 不動避難小屋(1120,1145) - 五地藏山(1235,1245) - 高妻山(1445,1505)- 五地藏山(16:2516:35) - 避難小屋(1700,1715) - 牧場 P(19:00)=鬼無里の湯 500円(20352130)==小谷道の駅(23:31)
 6/25(日)小谷道の駅(6:05) = キャンプ場(6:35) - (読図講習会) - 笹平(10:2510:30) - 雨飾山(11:0011:30) - 笹平(11:55) - キャンプ場(14:2014:30) = 白馬**ホテルそば(16:3017:00) = 豊科IC(18:00) = 岩津C(20:40)

概念図:



日誌:一日目 事前の下調べで HC3 枚使用して割安で更埴 IC までひた走る。戸隠牧場は入山者は無料で通過できる。快適な滑り出しである。沢は水が豊かで、靴をぬらしながら幾度も沢渡りを繰り返しながら高度を上げていく。途中一枚岩の鎖場が 2 箇所あるが十分に注意を払えば問題はない。途中の冷たい岩清水にのどを潤しながら不動避難小屋に着く。頑丈な作りの避難小屋で前泊者がいた。そこからは右手にザレ場を見ながら少しずつ高度を上げていく。同行の新人 N 氏が地図を広げながら読図を何度も試みている。立派。途中イワカガミ、マイヅル草、シラネアオイの群落が続く。標高を上げるにつれ高妻山の美しい姿が見え隠れするようになり天気は快晴に向かってくる。右に妙高、火打を見ながら西に戸隠の峰々を眺める。八丁だるみに来て一気に 1 時間の急な登りとなる。苦しさで足が痙攣。同行者の塩とスポーツドリンクで回復。無事頂上に到着。15 時。午後とはいえ天気は晴れ渡り、明日登る雨飾山もはっきり見え力強い。鎖場に注意して暗くなる前に下山。日の長い夏場だからできる行程である。

二日目 昨日の強行軍をもとせず、全員 5 時に跳ね起き 6 時に小谷の道の駅を出発。(小谷の道の駅には深山温泉がある。500 円)駐車場から登り口まで雪解けに水芭蕉の美しい光景に一同得した気分で登頂し始める。高妻に比べ雨飾山が登り一筋でいかに楽な山なことか。また、雪解けが遅いせいか高妻山に比べ花の数も少ない。これからなのだろう。ブナ林を抜け急登すると残雪残る沢?らしきところに出る。残雪があると急に道が読めなくなってくる。ここで読図講習会を 1 時間ほど行う。夏道や赤いしるしが見つからない場合の道選択は地図と磁石と高度計で推測していくしかないを実感した。軽アイゼンを付け雪渓を渡る。雨飾山は山容を様々に変えながら楽しませてくれる。急な登りを終えると笹平。美しい。山頂までは花畑が続く、急な坂道も気にならない。頂上に着くと日本海、鹿島槍、五龍、唐松、白馬の峰々。遠くに槍まで見えてしまった。局所的高气圧の発生に感謝して下山した。帰りは雨飾山荘上の無料露天風呂(男女別)につかり二日間の疲れを癒した。

感想:百名山二つ並んでいるので都合と思いきや、高妻山から雨飾山への道はくねくねとした山道しかなく、深夜狐にだまされたように山道を下った。8時過ぎに鬼無里の温泉の明かりを見つけたときには、神のお恵みと感謝した。山道は甘く見てはいけない。昭文社の山地図でも種類によっては歩行時間が1時間も違い、1日目の10時間半の行程は、適当であると判断した。